



平成 18 年 6 月 23 日

各 位

会 社 名 株式会社サンオータス
代 表 者 名 代表取締役社長 北 野 俊
(J A S D A Q コード番号 : 7 6 2 3)
問 い 合 せ 先 取締役管理本部長 古 川 晴 男
T E L 0 4 5 - 4 7 3 - 1 2 1 1 (代表)

平成 18 年 4 月 期 (連 結 ・ 単 独) 業 績 予 想 お よ び
期 末 配 当 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ

平成 17 年 12 月 26 日付当社「平成 18 年 4 月 期 中 間 決 算 短 信 (連 結) 」 なら び に 同 日 付 当 社 「 平 成 18 年 4 月 期 個 別 中 間 財 務 諸 表 の 概 要 」 に お い て 発 表 い た し ま し た 平 成 18 年 4 月 期 (平 成 17 年 5 月 1 日 ~ 平 成 18 年 4 月 30 日) の 業 績 予 想 お よ び 期 末 配 当 予 想 を 下 記 の と お り 修 正 い た し ま す 。

記

I. 平成 18 年 4 月 期 業 績 予 想 の 修 正

1. 平成 18 年 4 月 期 連 結 業 績 予 想 の 修 正 等

(1) 平成 18 年 4 月 期 通 期 (平 成 17 年 5 月 1 日 ~ 平 成 18 年 4 月 30 日) 連 結 業 績 予 想 の 修 正 等

	売上高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A) (平 成 17 年 12 月 26 日 発 表)	26,500 百万円	580 百万円	300 百万円
今 回 修 正 (B)	27,128 百万円	486 百万円	229 百万円
増 減 額 (B - A)	628 百万円	△94 百万円	△70 百万円
増 減 率	2.4%	△16.2%	△23.5%

(2) 修正理由

売上高は、カーライフサポート事業では、燃料油を中心とする石油製品の販売において、当期前半における原油価格の高騰を背景に石油製品価格が上昇したことから、一時的には買い控えの動きが出るなどの影響もあり、燃料油のうちガソリンの販売数量は減少いたしました。また販売数量の減少を抑えるため一部地域で競争の激化により販売価格も低迷し、価格動向については予断を許さない状況が続きました。当期後半も、厳冬による灯油の増産に伴いガソリンが供給過剰となったことで需給バランスが崩れ、一時期市況が混乱しました。このような環境の中で、石油製品販売部門では、ガソリンについては販売数量で予想を下回りましたが、製品価格の上昇により売上高では予想を上回りました。

レンタカー事業は新規出店効果が、車検整備事業は環境車検の取扱いが、それぞれ売上に貢献いたしました。

カービジネス事業では、個人消費の底固い推移を受け、新車・中古車の販売ならびに整備業務が順調に推移し、売上高で予想を上回る実績を上げました。新車種の投入がなかったジャガー車販売は低調でしたが、フォード車の販売は堅調に推移しました。また主力車種において新型車の投入が大きく貢献したBMW車販売は予想を上回る実績を上げております。

この結果、グループ全体の売上高は目標比 2.4%増の 27,128 百万円となりました。

経常利益では、石油製品販売部門で原油価格の高騰による影響を受けました。原油価格高騰に伴う仕入価格の急激の上昇が行われたにもかかわらず、販売業者間での価格競争の激化や、当期後半の需給バランスの崩れによる市況の混乱の影響もあり、仕入価格上昇分が販売価格に転嫁されないという極めて特殊な状況となり、利益面では予想を下回る事となりました。

カービジネス事業では、フォード車販売が堅調に利益を上げたことに加え、新型車の投入が大きく貢献したBMW車販売は、利益面でも予想を上回る実績を上げることができました。

また、カービジネス事業の好況を背景に、当連結会計年度においては財務の健全化を図るため、販売が低調であったジャガー車販売子会社の店舗ならびにBMW車販売子会社の遊休資産売却による減損会計処理を実施いたしました。

この結果、経常利益は 486 百万円（当初予想比：94 百万円の減少）となりました。当期純利益は 229 百万円（当初予想比：70 百万円の減少）となりました。

(3) ご参考：前期の実績(平成16年5月1日～平成17年4月30日)

	売上高	経常利益	当期純利益
通 期 (5 月 1 日～ 4 月 30 日)	24,597 百万円	557 百万円	289 百万円

2.平成 18 年 4 月期単独業績予想の修正等

(1) 平成18年4月期通期(平成17年5月1日～平成18年4月30日) 単独業績予想の修正等

	売上高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 17 年 12 月 26 日 発 表)	18,500 百万円	460 百万円	240 百万円
今 回 修 正 (B)	18,647 百万円	338 百万円	161 百万円
増 減 額 (B - A)	147 百万円	△122 百万円	△79 百万円
増 減 率	0.8%	△26.5%	△32.8%

(2) 修正理由

売上高につきましては、カーライフサポート事業は、連結・単独ともに事業内容が同一であり、修正理由、修正額は連結業績と同じ内容であります。

カービジネス事業はフォード横浜が堅調に推移し、単独の売上高は 18,647 百万円と当初予想比 0.8%の増加となりました。

経常利益につきましては、フォード横浜は堅調に推移しましたが、前述のとおりカーライフサポート事業部門での石油販売において、販売業者間での価格競争の激化や、ガソリンの生産量の増加による供給過剰により、原油価格高騰に伴う仕入価格上昇分が販売価格に転嫁されない状況となり予想を下回る事となりました。この結果経常利益は 338 百万円（当初予想比：122 百万円の減少）となりました。

当期純利益につきましては、財務の健全化を図るため子会社への貸付金に関する減損会計処理を実施したこともあり、161 百万円（当初予想比：79 百万円の減少）となりました。

(3) ご参考：前期の実績(平成16年5月1日～平成17年4月30日)

	売上高	経常利益	当期純利益
通 期 (5 月 1 日～ 4 月 30 日)	17,858 百万円	568 百万円	305 百万円

II. 平成 18 年 4 月期期末配当予想の修正

1. 修正の理由

平成 18 年 4 月期期末配当金につきましては、当初 1 株当たり 15 円 00 銭と発表しておりましたが、株主の皆様への利益還元の観点より、平成 18 年 6 月 23 日開催の取締役会において 18 円 00 銭とする増配案を、平成 18 年 7 月 26 日開催される定時株主総会に付議することを決議いたしました。

2. 平成 18 年 4 月期(平成 17 年 5 月 1 日～平成 18 年 4 月 30 日)期末配当

	中間配当金	期末配当金	年間配当金
前回予想 (平成 17 年 12 月 26 日)	—	15 円 00 銭	15 円 00 銭
今回修正	—	18 円 00 銭	18 円 00 銭

【参考】 平成 17 年 4 月期実績

	中間配当金	期末配当金	年間配当金
平成 17 年 4 月期	—	20 円 00 銭	20 円 00 銭

以 上